

質問に対する各区からの回答の概要

区名	小学校数	小学校人工芝校庭	中学校数	中学校人工芝校庭	人工芝化率	②ゴムチップ等充填材使用	③流出防止対策	④温暖化やヒートアイランド	⑤廃棄後の処理方法	⑥教育目的	⑦学校での使用は適切か。今後の予定は	備考
千代田区	8	2	3	0	18.2							※1
中央区	16	1	4	1	10.0							※1
港区	19	14	10	4	62.1	使用している学校もあるが、近年はゴムチップレス仕様製品を使用	人工芝や充填材の流出抑制装置の設置を検討中	メーカーにヒアリングしながら、表面温度の抑制等に配慮した製品を使用するようにしている	毎年メンテナンスを実施。リサイクル等の環境への配慮についてメーカーにヒアリングを行い検討	天然芝を維持するためには日照時間の確保や養生期間が必要で、年間を通して使用できない。砂塵抑制や弾力性に優れた人工芝を採用	安全性や環境への配慮についてはメーカーにヒアリングしている。今後も校庭の改修時には人工芝を使用する予定	
新宿区	29	17	10	1	46.2	芝生の種類によって使用	人工芝の摩耗により発生した芝片は、必要に応じて除去。泥溜め柵を設け、流出防止を対策		関連する法規を遵守して適切に処理	水はけが良く、クッション性により怪我のリスクを軽減することができ、管理がしやすいことから教育活動に有効	教育の場にふさわしくないとは考えていない。現時点では、区内全校の校庭を人工芝化する予定はない。引き続き検討していく。	※3
文京区	20	19	10	4	76.7	使用	芝の淵に砂止めを設置。排水設備には泥溜め柵を設置。人工芝の保守委託で芝の清掃や側溝、配水管等の清掃	文科省から人工芝を控えるようにとの通知は発出されていない。区としても教育の場にふさわしくないとは考えていない	東京都建設リサイクルガイドラインや法令に則り適切に処理	水はけがよく天候に左右されにくい。ケガ防止や砂塵対策にも有効。ビオトープや自然体験教室などで自然に親しむ機会を設けている	教育の場にふさわしくないとは考えていない。現時点では校庭の人工芝化の予定はない。	
台東区	19	1	7	0	3.8	不使用	講じていない	把握せず	産廃の廃プラスチック類として適正に処理	鉄棒や雲梯、登り棒の設置箇所に部分敷設。着地緩衝材として採用	予定なし	26校中1校を一部人工芝化
墨田区	25	0	10	0	0							※2
江東区	45	?	23	?	5.8	4校中3校で使用	適切な維持管理に努める	スプリンクラーで散水	法令に則り適正に処分	砂塵対策。雨天後の速やかな使用が可能のため、教育活動に有効	環境配慮と教育環境の充実を実現できるよう適切な舗装を今後選定	小中、義務教育学校計69校中4校人工芝

品川区	31	13	9	3	47.8	8校で使用	芝の抜けづらいものを選択。U字溝を適宜清掃。排水柵に流出抑制用の籠を設置	周囲に樹木。散水を適宜実施。気候変動については国等の動向を注視	今後リサイクルできる人工芝を検討したい	利点として、雨天後の利用や冬場に霜柱の影響を受けない等で使用できる日数が増加、砂塵対策、ケガのリスク減少、校舎内への土の持ち込み減少、クッション性がよいことなど	安全性や環境面への配慮についてはメーカーにヒアリング。人工芝の利点は大きいことから、自然環境への影響を最小限に抑える製品を選択。今後検討	小中+義務教育校6校で計46校、内22校人工芝
目黒区	22	8	9	1	29.03	すべての人工芝で使用	流出しにくい製品を選択	酷暑が予想される日は気温上昇抑制に配慮。気候変動については今後も注視	法に則り適正処理	転倒時にけがをしにくい。雨天後の校庭のコンディション回復が早い。児童・生徒の衣服が汚れにくい	環境や健康への影響に配慮する。今後の予定は未定	
大田区	59	0	28	0	0							※2
世田谷区	61	0	29	0	0							※2
渋谷区	18	14	8	2	61.5							※1 小学校はロングパイル7校、砂入り7校。中学校はロングパイル1校、砂入り1校
中野区	21	4	9	2	20.0	中学校1校は砂入り。他は充填材不使用	排水溝を適宜清掃。製品の選定には環境への影響等も考慮。メーカーによると、ノンフィルタイプでは芝片はほぼ生じないとのこと	教育上の利点がある。気候変動への影響等については、国やメーカー等の動向を引き続き注視し環境への影響等も考慮	法令に基づき適正処理。メーカーや製品により、リサイクルシステムは構築されているものがある。	雨天の翌日でも使用可、霜柱の影響がない、砂塵対策、養生期間不要、校舎内への砂等の持ち上がりが生じにくい、クッション性がありケガしにくい、寝転べるなど、教育活動上の利点あり	今後整備する新築校に人工芝を導入予定	
杉並区	40	1	23	1	1.6	不使用	講じていない	⑥と一緒に回答	法令に基づき適切に処分。リサイクルも視野	雨天後の使用が容易。砂塵対策。冬場の霜などによる校庭使用制限が少ない。限られた校庭のより効率的な活用	予定はないが、各学校の状況により検討	特別支援学校を合わせ小中学校数は計64校。施設一体型の小中一貫校1校のみ人工芝
豊島区	22	1	8	0	3.3	不使用	充填材を仕様していない	教育の場にふさわしくないとは考えていない	法令に基づき適切に処理	周辺の都市環境などを踏まえながら検討	小学校はゴムチップ舗装を標準としているが、中学校は人工芝も含め仕様を検討	

北区	34	5	12	5	21.7	砂のみ	ちぎれにくいものや抜けにくいものを選択。排水溝の清掃	「北区立小中学校整備方針」において、良好な運動環境の確保やメンテナンス性、砂塵対策に留意し工夫することや、必要に応じてゴムチップ舗装や人工芝等の特殊舗装を考慮することが定められている。引き続き、教育活動や安全性への影響、コスト面などを総合的に判断したうえで、適宜・適切に校庭を改修する			
荒川区	24	0	10	1	2.9	砂のみ	学校で適切に対策	教育の倍にふさわしくないと考えていない	適切に廃棄処分	転倒事故等防止や砂塵対策として有効	適切。未定
板橋区	51	10	22	0	13.7	使用(一部環境対策骨材を使用)	各学校で対策。例えば、外周にL字型側溝を設置し学校敷地外に校庭からの雨水が流出しない対策、L字型側溝には集水枘と泥溜めを設置し定期的に清掃するなど	高温が見込まれる時は散水。気候変動の観点からは影響の状況が明確でないため、回答できない	法に則り適正処理	水はけがよく天候の影響が少ない。砂塵対策。寝転んで遊べて好評	導入校においてはメンテナンスや更新により管理。今後については学校の立地、環境や健康への影響を考慮し検討
練馬区	65	1	33	0	1.0	不使用	集水枘に接続している配水管にスクリーンを設置	校庭が校舎の北側にあり、ぬかるんで長期間使用できないことがあり、授業に悪影響があったため導入	法令等を遵守し適切に対応。リサイクルも検討する	④と同じ	予定なし
足立区	67	36	35	1	36.3	ロングパイプ芝に使用	一部の学校で人工芝範囲最終排水枘にフィルターを設置。各校年1回メンテナンスの際、周囲に堆積した芝片や充填材を収集・廃棄	芝上の高温対策として散水	法に則り適正処分	水はけがよく、クッション性に優れるため、児童の活発な運動環境の確保や事故の軽減・防止効果等、学校教育上多くの利点がある	学校教育上の利点に加え、砂ぼこりの発生のない人工芝は周辺住環境向上につながり、またぬかるんだ校庭の整備が不要となるため教職員の負担軽減にもなる。今後も学校や地域の要望を聞き、導入を個別に判断
葛飾区	49	1	24	2	4.1	樹脂チップ使用	講じていない。切れにくい人工芝を使用することで、芝片が生じにくいものとなっている。水環境への影響は少ないものとする	スプリンクラーで散水している学校もある	法令の基づき適正に処理	降雨からの回復が早い。砂塵対策。維持管理が容易。アンケート調査では、小学校では74%、中学校では80%の児童・生徒が「前より良くなった」と回答	予定はないが、今後の研究結果や国の動向を注視し、検討

江戸川区	66	1	32	0	1.0	不使用	排水溝にフィルターを設置	以前のゴムチップ舗装に比べ表面温度が低下。酷暑が予想される日は水を散布	法に則り適正処理	維持管理の負担軽減.クッション性がありケガをしにくい。校庭で寝そべって遊ぶ子どもが増え、現場で好評	環境や健康への影響を考慮し、導入校の状況を検証した上で検討
------	----	---	----	---	-----	-----	--------------	-------------------------------------	----------	---	-------------------------------

※1 区からの回答がないため、校庭数は冊子『東京都における小中学校施設の現状』（東京都教育庁地域教育支援部, 2022.5.1）より抜粋。

※2 冊子『東京都における小中学校施設の現状』に人工芝が敷設された校庭数の記載がないため、人工芝校庭はないと判断し、質問状は未送付

※3 ホームページ掲載後に区から回答があったため追加掲載した。

